666
102

666-102
1200501573906

推薦圖書目録

大日本聯合青年團編

第十四輯

68
10

昭和十一年九月

推薦圖書目錄

第十四輯

大日本聯合青年團

666
102

はしがき

本冊子は昭和十年十一月から同十一年六月までの間に出版せられた圖書のうち、特に青年の讀物として、適當と認められたるもの六十三册を、本團推薦圖書委員會に於て嚴選したその圖書目錄である。

圖書の推薦方法は、昭和三年以來本團に推薦委員會を設け、委員數名を囑託して毎年春秋二回委員會を開催し、新刊圖書のうち青年の讀物として適當なるものを、愼重審議の上推薦して來たものである。而してその結果は小册子及び日本青年新聞を通じて夫々發表し、文書教育普及の一助とした。本冊子はその第十四輯である。

青年團並に一般社會教育關係方面に於て、廣く利用せられんことを切望する。

昭和十一年九月

大日本聯合青年團調査部

發行所寄贈本

推薦圖書委員

帝國圖書館長	松本喜一氏
文部省社會教育局青年教育課長	朝比奈策太郎氏
東京帝國大學圖書館司書官	小野源藏氏
文部省囑託	伊藤治郎氏
帝國圖書館司書	岡田溫氏
大日本聯合青年團理事長	香坂昌康氏
同　常任理事	福島繁三氏
同　調査部長	下村虎六郎氏
同　教務部長	吉永貫一氏
同　編輯部長	熊谷辰治郎氏

目次

修養・處生・教育……一
國家・兵事・社會・政治・經濟……九
歷史・傳記……一二
地誌・紀行……二一
科學……二九
體育・衞生……三三
文學・藝術……三五
產業（農・工・商業）……四五
附錄　第十三輯收錄の圖書目錄……五四

教育勅語渙發の由來

渡邊幾治郎著

四六判 二七〇頁 一・五〇〒・一〇 學而書院

著者は前臨時帝室編修官として多年の間貴重な、精確な史料について研鑽せられた方である。本書は昭和五年十月教育勅語渙發四十年記念に際し、報知新聞社の需に應じて、十六回に亘り連載したものを、昭和十年春以來新に蒐集せる材料を以て改作することに著手し、「舊稿を止むるもの十の二三、その七八を新にし、更らに數章を增補し、餘論として明治天皇の御學問、御製に拜する教育御思想等數章を加へ、以て廣ろく教育に關する叡旨を拜察して、教育勅語の解釋に資せんと欲せしもの」である。

著者は「教育勅語の淵源」として遠く建國の精神にまで源を探ね、次ぎに「明治維新の二大精神」として復古思想と開化日新思想とを指摘し、それが教育の制度及び思想の方面に如何なる發現を見たかを究明して、教育勅語渙發前における教育情勢並に社會、思想情勢に說き及び、いよいよ勅語渙發の次第を明叙することに入つてゐるのである。本書中最も感銘の深いと

ころは、その起草を文部大臣に命じたまひ、遂に渙發せられるに至るまでの叡慮の畏さである。本書によつてわれ〳〵は教育勅語が徹頭徹尾　明治天皇の叡慮の御發露であることを審に知ることが出來るのである。日本國民の必讀すべき一書であると信ずる。

道元

圭室諦成著

四六判　二七四頁　一・二〇　〒・一四　日本評論社

この書は日本佛教聖者傳中の第八編であり、著者は駒澤大學の日本宗教史の專攻者である。佛教復興の聲に應じて、多くの佛教書や聖者傳が出たが、この叢書もその一つである。道元傳や道元の研究書もいろ〳〵な方面から數多く出たが、この書はその中でも一般向の良書であらう。著者も「知識大衆に禪師の眞面目を傳へることを目的とした」といつてゐる。

內容は平安末期の宗教界の情勢から說き起して禪師の最後まで辿り、卷末に著書解題を附けてゐる。出來る限り禪師の著述により、禪師の言葉を引用して、禪師の眞面目を傳へようと努めてゐる。禪師の一生はわれ〳〵凡人の規範を汲み取るべき淸冽な泉であり、崇嚴な高山のやうなものである。今日青年諸君も人生の新な規範を探究することに日夜懊惱してゐる時である。このとき道元の教へは何らか閃めく淸高なものを與へることであらう。

眞理に生きる

下村虎六郎著

四六判　二六八頁　一・二〇　〒・一〇　泰文館

下村先生の著書は、近くは本目錄の第十一輯に「凡人道」を推薦してゐる。本書も大體「凡人道」の諸篇と同樣雜誌に執筆されたものや、講演されたものゝ筆記を收錄したものであるが「凡人道」と異なつて本書には數多くの短歌が收められてある。序に依ればこれ等の短歌は先生が出版された歌集「冬青葉」以後のもので、「短歌研究」その他の雜誌に發表されたものである由、「眞理に生きる」と云ふ題名は如何にも堅いが、內容はそうではない。語られる話題は古今東西に及び、行文にはある泌み泌みとした想があり、その中に若干のユーモアさへ見出せる。洵に好個の讀みものである。

旅塵

田澤義鋪著

四六判　五九二頁　一・七〇　〒・一二　日本青年館

田澤先生が旅から旅への御多忙の御生活中に、色々の雜誌に執筆發表された感想、隨筆等八十篇に近いものを蒐錄したものである。旅塵と云ふ題名は、夫等の短章いづれも「旅の塵」で、「はた〳〵とはいて捨つべきものでもあらう」と謙遜された意味である。特に眞正面から青年運動を論ずるとか、或は修身訓話めいた堅苦るしいものは少しもなく、どの頁を開てどの一篇を讀んで見ても樂な氣持で面白く讀め、然かもその底に溢るゝ樣なこの著者の青年諸君に對する愛情のたゞよふてゐるのを感ずるのである。唯讀んで何とはなしに訓へられると云ふ風の本である。紀行或は之れに類する各地の見聞記が量として比較的多い。

青年心理

青木誠四郎著

四六判　一七八頁　・九〇　〒・〇六　叢文閣

本書は「兒童教育講座」中の一冊として刊行されたもので、本來分冊して販賣はしないものであるが、特に書店に賴めば便宜を計つてくれる。著者は云ふ迄もなく東京帝大の助教授で青年心理の大家である。本書は世の青年に對する人々に向つて「青年生活の特色について理解を進めたい」ために、誰にでも分かる樣に平明に青年心理を書いたものである。從つて本書は勿論青年自身が讀んで自らを省みると云ふ用に供してもよいのであるが、主として指導者が青年に接する折に、青年心理を學問的に理解しておくと云ふ爲めに役立つものである。記述はさ程難しいものとは思はれず、寧ろこの種の本としては讀み易いものであらう。青年の身體、心理的特質、感覺、感情、理性及び性の問題等の項が設けられてある。

孔子の生涯

諸橋轍次著

四六判　一八八頁　一・〇〇　〒・〇八　章華社

本書はラヂオの「朝の修養」として前後六回に亘り全國に放送された講演の筆記である。七十四年の孔子の生涯を六講に分かつて大略年代順に、孔子の人と爲り、還境、思想、教育事業、及び孔子歿後の儒教發達の經路を述べたものである。

我々は孔子と云へば直ちに論語を想ふ。それ程孔子と論語とは切り離なすことは出來ないもので、孔子の教へ、孔子の生活記錄はすべて論語の中に壓縮されてゐると見て差支へない。この意味で本書はさきに推薦した同じ著者の「新論語講話」(本目錄第十輯所收)姉妹篇と見るべきで、前者が論語を中心として儒教精神を說いたと同樣、本書も孔子の生涯を錄することに依

つて儒教の根本思想をその中に浮かび上らせようとするものである。
孔子の教は平實中正の實際教であつて、別段特別の形式に依る修道を云はず、日常我々の實生活の中に正しきを求めて行く教である。これにつき著者は「道は中庸に存する。水と米の飯とには甘味も辛味もありません。併かし、其の特別な味のない處に、實は特別の眞の味が籠つて居ることを忘れてはなりません。私共はこの際矯激を誡め制節を尙ぶ爲めにも、特に儒教の如き平實中正の教へを奉じたいと存じます」と云つて今の世に適合する教へであることを力説して居られる。尙卷末には附錄として「老子の話」と云ふ一文も添へてあるが、之れもラヂオの放送講演である。

讀書三昧

鶴見祐輔著

四六判　四三六頁　一・五〇　〒・一四　大日本雄辯會講談社

隨筆集である。讀書三昧とは卷頭に掲げられた一短章の題名に過ぎないので、全卷がすべて讀書に關するものゝみではない。例へば「世界史的角度から」と題して集められた八篇は主として社會評論であり、又「典型的立憲政治家」と題して集められた十三篇は、歐米の政界に活躍する人々の風丰を傳ふるものである。その他著者の感想もあり、人物の評傳もあり、讀書論もあり讀まれた本の感想批評もありと云つた工合に全卷極めて多彩である。何れも青年を對象として書かれたもので、青年の意氣と感傷とが巧みに綾なされた書き振りは只感歎の外はない。

鄕土に輝く人々

熊谷辰次郎著

四六判　三一一頁　一・三〇　〒・一〇　泰文館

世に平凡の非凡と云ふ言葉がある。薔薇や牡丹は美しいには美しいが、それだからと云つて野に咲く野菊や山百合が之れに對して見劣りがすると云ふ理由は少しもない。英雄の生涯は絢爛で美しいには違ひないが、我々人類の大部分である凡人には、餘りにも縁遠い存在である。野にある小菊、實生活に孜々として働いてゐる偉大なる凡人、その中に寧ろ我々の生活の指針が見出せる。本書に於て著者の窺つた所はそこにある。「當り前の生活を、こつ〳〵としてゐながら、味ひのある人、かうした人は偉い人である」著者は序文で斯う云つてゐる。本書はこの樣な意味で我々の生活の師表たり得る人々の奮闘の實際、及び甦生途上にある村々の更生實話約三十篇を收さめたもので、何れも感激に充ちたものである。

國史と日本精神

植木直一郎著

四六判 二〇五頁 一・二〇 〒・一〇 青年教育普及會

世界いづこの國の歴史を見ても、一國の歴史と稱する以上其の國を造つて居る民族の歴史卽ち國民の歴史でないものはない。然かも尙我が國の歴史が萬邦無比と稱せらるゝ所以のものは抑々何であらうか。卽ち我國の歴史が單に國民だけの發達の跡を辿るのではなくして、實に皇室を中心とした國民の歴史であると云ふ處に特異性があるのである。この歴史上の特異性を考慮に入れなければ國體の明徵と云ふことは考へられないのである。

本書は元來著者が國學院大學に於てなされた日本精神講座の講演筆記であるが、この講演の主旨は我國歴史の特異性の認識を正確にし日本精神の由來する處を明かにして、以つて我國體の明徵をはからうとするものである。故に日本歴史を系統的に叙述したものではなく、主として古典を解釋することに依つて建國の精神を說いたものである。講演筆記であるから記述は平易である。

國家・兵事・社會・政治・經濟

世界再分割時代

清澤洌著

四六判 四五二頁 一・五〇 〒・一二 千倉書房

米國のハウス大佐によつて提唱せられ、問題を惹き起こした植民地再分割論について、著者一流の敏捷活潑な議論を展開したのが本書である。現在の國際情勢における日本の立場に立脚して、永遠平和將來のために解決すべきこの大問題に向つて、大所高所より堂々發言したものである。

第一章は「空腹國と滿腹國」、第二章は「國際水平運動の發足」、第三章で十九世紀までの「世界植民地分割史」を說いてゐる。第四章は「世界重心の移動」として歐洲大戰後の國際情勢を說き、第五章が「解決への途」である。その中最後に「日本のとるべき國策」を論じて、日本は正々堂々合法的に進むべしとしてゐるのである。

まさしく著者のいふ如く「この問題を、眞實的に世界に提示したのは、滿洲事變を契機にす

る日本であつた」といつてい〻であらう。日本はいは〻この新なる情勢において中心人物として立つてゐるのである。このとき、全世界的見地から植民地問題を新たに檢討することは決して無意義でない。われ〳〵は滿洲問題を念頭から取り去ることが出來ないと同時に、この問題を忽にすることは出來ないのである。

議會・政黨・選擧　蠟山政道著

四六判　二七〇頁　一・五〇　〒・一〇　日本評論社

本書は偶々非常時時代に起れる選擧肅正運動を機會として著はされたものであるが、これを機會に國民一般に眞に立憲的制度の意義を自覺せしめんとの意圖を有するものである。

今日立憲政治と議會制度とは正にその試錬の秋に際會してゐるものであるが、それを通じて國民も亦その政治的良心並びに能力の試錬期に立つてゐるのである。この際眞に立憲制度の眞諦を自覺するにあらずんば、わが不磨の大典たる帝國憲法の精神に背くものとならなければならない重大な時機である。この秋著者の如き人がこの生きた現實の大問題に直面してその根本原理を指示し、國民をして歸趨を誤らざらしめんと努めたことは、まことに意義あることでなければならない。

本書は「議會政治の根本問題」「政黨政治はどうなる?」「國策協定より國策審議へ」「政黨復活への王道と權道」「選擧とその肅正運動」「現代日本の政治的性格」の諸篇から成つてゐる。

明治天皇と軍事　渡邊幾治郎著

四六判　三九三頁　一・五〇　〒・一二　千倉書房

本書はさきに掲げた「教育勅語渙發の由來」と同じ著者の著述になるものである。何れの著述においても著者は終始一貫　明治天皇の聖德に感激の誠を捧げ奉つてゐるのであるが、本書において正に極まれりの感がある。

本書は「明治天皇と國軍」「明治天皇と日清戰爭」「明治天皇と日露戰爭」の三大篇に分かれてゐるが、その何れを讀んでも大御心の尊さが胸に滿ちて來るのである。本書はた〻に明治天皇を中心とした軍事史たるに止らない。偉大なる國民修養の書であるといはなければならない。

歴史・傳記

支那小史 黄河の水　　鳥山喜一著

四六判　三〇八頁　特價一・八〇　〒・一四　刀江書院

この書は「少年子女のために」といふ立場から、支那の歴史を平易に、面白く、しかも正確に書かれたものである。初版は十年前に出、それ以後三回改訂されて、これが三度目のものである。少年のための歴史書ではあつたが、意外に廣ろい讀者層をもつことゝなつたと著者はいつてゐるが、大人が讀んでもいゝ本であるし、青年諸君には至極適當な本であるとおもふ。支那の歴史といへば謂ゆる東洋史で、無味乾燥なものとおもはれて來たのであるが、この本を讀むと、面白い物語の本でも讀むやうに、樂しんで讀むことが出來、一通り支那史の内容を摑むことが出來るといふ極めて珍らしい有益な著述である。著者は京城大學の教授で、普通人から疏遠にされてゐる支那の歴史に親しみを持たせ、支那を正しく理解させるためにとおもつて、特に執筆されたものである。書名を「黄河の水」としたのは、黄河は支那のシムボルであるといふ意味からだといはれてゐるが、この書名がまたこの本にふさはしくて、なんともいへずいゝ。かういふ歴史の本だつたら誰しも喜こんで讀むであらうし、すべて通俗書はこのやうに平易、興味、正確の三點を備へて書かれて欲しいと誰もおもふことであらう。

内容は「黄土を舞臺に（傳説の時代）」といふ題目から始まつて、「五色旗と青天白日旗（現在の支那）」といふところまで、十三章にわたつて書かれてゐるのである。至るところに挿畫や地圖が入つてをり、その點にも著者は非常な注意を拂つたといはれてゐる。字も大きな活字になつてゐるし、適宜振假名つきになつてゐることも讀み易くしてゐる。なほまた卷末には年表もあり、索引もある。

偉人權兵衛（山本權兵衛伯逸話集）　　村上貞一著

四六判　四〇〇頁　一・五〇　〒・一〇　實業之日本社

我が海軍の建設者であり、近世日本の生める一偉人である山本權兵衛伯の言行錄である。著者は十有七年伯の知遇を得た人であるといふ。

内容は「信念の人」「膽略の人」「細心の人」「情の半面」「先輩後輩」「交友五話」「對外論」「處世道」

「家庭人として」の九章と附錄「權兵衞伯と著者」とから成つてゐる。著者は伯をかう見てゐる。「精密に組み立てられた機械のやうに、何處を叩いても寸分の隙がない。全人格が常人の水準を拔いた高さにあつて、ユーモアがない代りに一擧一動、片言隻語、そのまゝ悉く教訓となるのだ。乾燥無味のやうに見えて、嚙みしめれば嚙みしめるほど人格的滋味が油然と溢れてくる。そこに偉人としての伯の特異性が存在する」と。本書を讀めば、各方面から語つた伯の逸話を通じてよくその人となりを知ることが出來る。附錄は著者の備忘錄の拔萃であり、著者の個人的記錄に屬するものであるが、本文と共に伯を理解するに併はせ讀むべきものである。

　青年諸君はかゝる親しみ易い逸話記錄によつて一偉人の性行を知ると共に、近世日本發展の一面に觸れて、大いに元氣を鼓舞せられたい。

景岳 橋本左内　滋賀貞著

四六判　二九六頁　一・五〇　〒・一二　武藏野書院

　本書の著者は、さきに推薦した昭和三年秋の著「偉大なる青年橋本左内」と同じ著者である。本書はその後に發見せられた資料その他を利用し、增補改訂して出されたもので、現在のところ左内傳として暫らく定本とするに足るものである。

　本書は「橋本左内は如何なる人か」以下二十六歲の若年を一期として最後を遂げるに至るまでの詳傳であり、卷尾に「雜觀と餘話」錄附に「啓發錄」「書翰」「年譜」を附してゐる。漢文や書簡文等は假名交りに書き改ため讀み易くしてゐる。

　「先生は幕末に於ける偉人傑士の中に特に卓立した天才であつた。（中略）恐らく斯う何から何迄具足して缺點の無い人は古今その例に乏しいであらうが。」と著者はいつてゐるが、本書を讀めば異常な天才であつたことが解る。附錄に若冠十五歲の筆になる「啓發錄」の一篇があるが、その堂々たる文字は他に比類のないものであり、今日の青少年を奮起せしめるに足るものがあらう。

　われ〳〵は著者の深い景慕の心がかくの如き良書に結晶せることを喜こび、現今多難の時代に青年諸君の必讀を切望するものである。

青年賴山陽　木崎好尚著

四六判　二六三頁　一・五〇　〒・一四　章華社

著者は山陽の古い研究家として令名の高い方である。本書は山陽久太郎の生立より三十歳菅茶山の塾に教授として赴くときまでの青年時代の山陽を詳細にわたつて縦横に取扱つたものである。流石に多年の研究はよく練りに練れて、豊潤水のごとく溢れ出てゐる。文書も今の人に讀み易く書き現はし、事件を語り、人を談じ、時勢を說き、感慨を漏らすなど、まさに縦横無礙であり、この人にしてはじめてよくすることを思はせるものがある。

青年諸君は本書を讀んで、われと同じやうな青年頼山陽を感じ、風雲たゞならぬ時代の子である山陽の憂悶發奮を感得し、その事業の意義眞價を會得することが出來るであらう。このやうな著述は稀れに見るものであり、青年の讀物として現代に適合した得難いものゝ一つであらう。

發明王エヂソン　深澤正策 著

四六判　三六七頁　一・四〇　〒・一四　新潮社

三歳の童兒もその名を知るエヂソンの傳記は、おそらく日本においても汗牛充棟といふべきほどであらうとおもはれるのに、この書の著者は尠いのに駭くといつてをり、さらに「私の蒐めてゐた資料と相違する點が多いのに駭かざるを得なかつた」といつてゐる。このことばは半面著者の自信を語つてゐるものである。

この書の力點は、第一にエヂソンを生んだ社會的背景を詳述することにある。第二にエヂソンを徹頭徹尾技術者として偉大な人物と見たことである。この二つの力點は他のエヂソンとは著しく異なる色彩をこの書に與へてをり、現代日本人の見たエヂソン傳の感を濃厚にしてゐるのである。

全文振假名つきであり、平明で達者な叙述は、讀者の興を誘つて飽かせない。著者は特に「理科方面に興味のある新時代の青年にも果たして面白くないであらうか」といつてゐるが、現代の青年諸君に最も好適なエヂソンであらう。

人類の恩人 野口英世　正木不如丘 著

四六判　三二八頁　一・四〇　〒・一四　新潮社

この本は深澤氏の「エヂソン」と同じ新傳記叢書の一編であるが、著者は醫學博士で特異の文筆をもつた著名の人である。著者は「私の野口博士傳」であるといつてゐるほどに、この本

は感激的に書かれてある。しかも決して理想化したものではなく、眞の博士を知りたいとおもつて、材料の眞僞を檢討し、疑はしいものは捨てたといつてゐる。

全篇を「手」「貧」「運」「根」「情」「功」「死」といふ七篇にわけて、傳記小說的に、興味ある筆で書いてゐる。幼時ふとした母の不注意から手にやけどをしたことから、アフリカで黃熱病研究の犠牲となるまでの一生を劇的に物語つてゐる。野口博士傳の中では最も興味ある讀物であることには疑ひがなく、事實の正確性も信じてよいとおもふ。

世界的に偉大な人を知ることは深ければ深いほどよい。この本は青年諸君に最も適した傳記の一つであらう。

二宮尊德の思想と行績　高須虎六著

四六判　三五八頁　一・六〇　〒・一二　高陽書院

さきに佐々井信太郎氏の「二宮尊德傳」を推奬したが、それはすでに紹介したとほり仕法を精叙して尊德翁の人格を傳へる無二の良書ではあるが、閱讀に艱難を忍ばなければならない程のものである。本書は簡にして要を得、しかも實地調査や文献研究にも忠實を守り、努めて正確を期してゐるから、おそらく入門用の傳記としては最上のものであらう。書名は「思想と行績」となつてゐるが、行績卽ち傳記的叙述の部が約三分の二を占めてゐる書である。その部分は「その生立と修養」「その事業と教化」の二編から成つてをり、第三編は「その思想と教理」である。この部分はすこしく現代的に解釋しすぎた嫌ひがあるやうにおもはれる。餘編として後繼者を略述し、附錄に年譜を添へてゐる。

青年諸君はこの讀み易く、解り易い尊德傳記について翁を知り、仕法の實際については佐々井氏の著を熟讀して、實際生活上の指針を發見せられんことを希望してやまないものである。

我農生回顧錄　山崎延吉著

四六判　四一〇頁　一・五〇　〒・一〇　山崎延吉全集刊行會

明治三十年と云へば日清の役に戰捷して、國威漸く中外にあがり、謂はゞ近代日本の青年期であるが、この年に帝國大學を卒業され、直ちに農業教育界に入られて今日迄生涯を農業教育農村の開發の爲めに捧げられた山崎延吉先生の自叙傳である。明治六年金澤市に誕生されてから最近迄を順序正しく記されたもので、その間には農村振興の爲めにつくされた多くの業績に

ついて自から觸るゝ所があり、一面明治、大正、昭和の農村運動裏面史の觀がある。又卷末には感語逸話集として十五氏の山崎先生に關する逸話が集錄されてある。

開拓者を語る　日本放送出版協會編

四六判　一八三頁　・五〇　〒・〇四　日本放送出版協會

昨年の春から初夏にかけて、その年の四月一日より開設せられた青年學校を目標として大阪中央放送局より第二放送によつて放送された次ぎの五つの講演を收めたものである。

ルーサー・バーバンク　下田將美
福澤諭吉　宮原清
ニコライ・グルントウイツク　野田義夫
新島襄　橋本喜作
二宮尊德　永井瓢齋

明治維新に際して、新らしい物質文化、精神文化の建設に巨人の歩みを殘した福澤、新島兩先生、或は偉大なる老農であり又野の英哲であつた尊德翁については云はずもがな、ルーサー・バーバンクは今から八十七年前、米國マサチユーセッツ州に生れた農藝界の鬼才で、彼の手に依つてなされた幾多の新種の栽培、不毛荒地の開發等の功績には實に測り知れない大きなものがある。又ニコライ・グルントウイツクと云へば世にも名高い丁抹國民高等學校の創設者である。以上の五人は必らずしも農土の開拓者と云ふのではなく、中には文化の開拓者、思想の開拓者と目せらるゝ人もあるが、何れも我々の師表たる可き人々で、今こゝに此等の人々の業績を平易な講演として讀み得ることはまことに喜こばしいことである。

地誌・紀行

新陸地發見物語　谷口嘉六著

四六判　二三八頁　一・二〇　〒・〇六　寶文館

今日我々は世界地圖を擴げて見ると、地球の隅々まで人類の足跡の至らぬ所はない樣に思は

れる。が、この樣に地球を征服して今日に至つたのも決して一朝一夕のことではなく、何世紀かの長い年月と、幾多尊い血と涙の犧牲の結果であることを忘れてはならない。例へば今日僅か十數日を以て、宮殿の樣な立派な船のキャビンで渡れる太平洋も、十六世紀の初めマゼランの一行が最初に太平洋を横斷する迄は、どの位の廣さの海であるか、果して海の向側に陸地があるかどうか、それすらも分らぬ魔の大海原であつた。そしてこの大海原を征服する爲めには隨分長い年月と生命とが捧げられ、マゼラン自身もこの横斷の爲めに生命をおとしてゐるのである。そしてこれはひとり太平洋の横斷についてばかりではない。

本書では往古地中海をさし狹んでギリシヤ、エヂプトの榮えた時代の東方探檢から筆を起し伊太利からアジア大陸を横斷して支那に來たり、忽必烈に仕へたと云ふ中世紀の大旅行家マルコ・ポロ、大西洋を西行してアメリカ大陸を發見したコロンブス、アフリカの南端喜望峰を迂回して印度への航路を發見したヴアスコ・ダ・ガマ、さきに一寸記した太平洋横斷のマゼラン、未開地にキリストの敎へを傳導しようと云ふ大精神の下に暗黒アフリカに足を入れて彼地を探檢し、そして彼地に逝いたリヴイングストン、それから最近世の南北兩極の探檢隊等について記したものである。

歐羅巴地誌　有賀春雄著

菊判　三〇〇頁　二・二〇　〒・一二　刀江書院

この目錄では從來歐羅巴の紀行に關するものは何册か推薦してゐるが、地誌に關するものは比較的尠い。その意味で本書をこゝに掲げる。無論本書は民族、産業、都市分布等に關する記述の相當に加はつた所謂人文地理であつて地形、山川、寒暑等の記述を主とした自然地理學書ではない。歐羅巴を西部、中部、東部並に地中海沿岸諸國の四つに大別し、三十ヶ國に近い諸國について夫々項を新たにして述べられ、殊に歐洲大戰に依る領土國境關係については、この程度の本としては可也よくつくされてある樣に思ふ。民族の分布、各地の産業事情の記述等も洵によろしい。唯一つ難を云へば挿入された地圖の挿繪が、外國版の地圖を臺本にされた爲めか地名國名等がすべて歐文で出て居るが、之れは全然歐文を知らない人には稍々不便であらう。尤もこれとて固有名詞だけであるからほんの初歩でも英語をやつた人には不自由はない筈である。近頃に於ける恰好の地理書である。

日本精神と我が國土

寺田貞次 著

四六判　一三二頁　一・〇〇　〒・〇八　古今書院

本書は地理學者である著者が我が國土の地理的事情と國民精神との關係について所信を披瀝せる小著である。

内容は「自然事項と人間の生活」と「人文的事項と自然との關係」の二篇に別れてをり、前篇では世界的な觀察を通じて日本の事情に言及し、後篇では我が國民性と自然との關係を論究してゐる。我が國の自然的事情が我が家族的國家を建設し發展せしめるに好適であつたことから出發して、如何にそれが我が國情に現らはれてゐるかを各方面に亙つて觀察してゐる。書中至るところ風景、遺跡、圖繪等の寫眞があり、内容を興味あるものにしてゐる。日本國民性を理解する一助として有益なものであると信ずる。

日本的教養の根據（日本地人論）

佐藤得二 著

四六判　三二九頁　一・〇〇　〒・〇八　刀江書院

本書はさきに擧げた「日本精神と我が國土」と同じ類の本であるといつてよいとおもふが、日本の國土、民族を當面の對象として、前者よりも大掛りに總論的に論究した書である。著者の目的は、眞の愛國心を養ふ基礎的要件を日本の國土、民族の眞相の理解の上に見出さんとするにある。

「汝自身を知れ」といふことが人間的教養の出發點であると同じやうな意味において、今日國民は日本自體の自然的歷史的眞相を知ることを要求せられてゐるのである。このとき本書のやうな基礎的著述は最も時宜に適したものであり、青年諸君に是非とも讀んで貰らはねばならぬものである。

タイヤルは招く

大島正滿 著

四六倍判　一三六頁　一・五〇　〒・一四　第一書房

本書は東京朝日新聞に連載されたもの〻上梓せられたもので、臺灣蕃族の風俗民情を輕快な筆をもつて紹介したものである。

著者は生物學者であるが、熱帶の臺灣に北地の代表的魚族である鱒がゐるといふ報に接し、その眞僞を探究せんとしたのが、そも〳〵旅行の動機であつた。本書はその副産物とし生れたやうなものである。著者は「我が大君の御稜威が輝やく明かるい蕃界の實情を熟知」せしめ、併はせて「日出づる國の國民が弱者に臨む指導精神は、白人のそれに比して如何に崇高であるかを世に示して見たい」といふ熱意を抱いてゐるのである。

本書は興味と實益に滿ちた寫眞帖のやうなものである。われ〳〵は一頁一頁寫眞を繰りひろげながら、風景民俗に接し、樂しみながら讀んで行くことが出來る。今や全たく日本國民と化した臺灣蕃族の實情を知ることは、われ〳〵の責務であるともいへやう。まことに有益な著述といはなければならない。

天然記念物を探る

大阪毎日新聞社學藝部
東京日日新聞社學藝部 共編

菊判　三三五頁　三・五〇　〒・二〇　文　館

昨年の秋大毎東日兩紙に連載されて好評であつた「天然記念物を探る」に幾分の増補をしたものである。日本各地に散在する天然記念物が「自然の國寶」とも云ふべき意味で、法律によつて保存されてゐることは諸君等の既に御承知のことである。然しそれならば「どんなもの」が「どんな理由」で「どんな所に」天然記念物に指定されてゐるかと云ふ問題になると、之れ迄を知つてゐる人は割合に尠い。大毎東日兩紙が一般讀物として「天然記念物を探る」を掲載したのも恐らくこゝを窺つたもので、之れに依つて自然の國寶が國民一般に知れ渡り、その學術的價値が認識せしめられたとなると兩紙の功績や大なりである。記述は平易で北は北海道から南は臺灣迄、天然記念物として指定された植物、鳥獸、奇岩、樹木等について説明をしたもので、平易さを破らない程度に學術的な解説を織り交ぜた所は如何にもジャーナリストらしい手ぎわのよさである。挿入された豐富な寫眞も洵によい出來である。難を云へば價格が稍々高い。が、これとて寫眞の豐富な本書としては高價に過ぎると云ふことはない。

近江・山城

（近畿景觀第六編）

北尾鐐之助著

四六判　四一二頁　二・〇〇　〒・一四　創元社

阪神附近、大和河内、近代大阪、紀伊伊賀、京都散歩の五編に次いで刊行されたものである。琵琶湖をめぐる近江の景觀が主となつてゐる。前數編によつて知つたやうに、著者の筆はあくまで歴史的背景をおいて眺める景觀である。本書においても充分にその特色を發揮し、最も床かしく高雅な氣分を漂はすのは、なんといつても古の滋賀の都跡にまつはる湖畔の風景であらう。暮色身にせまるとき遠い宮所の跡に佇んで感慨にふけるあたりは、著者の筆も高潮に達するかに思はれる。この種の書を今日讀むことは單に趣味たるに止まらないであらう。歴史を顧りみ、自國を思ふ念の止みがたいものがあるからであらう。

北方への旅

アン・リンドバーク著
深澤正策譯

四六判 三九四頁 一・五〇 〒・一〇 改造社

昭和六年の夏、アメリカの鳥人リンドバーク夫妻が北太平洋の新航空路を開拓してカナダ、アラスカ、千島を經て霞ケ浦に飛來し、更らに大阪、福岡を經て支那南京迄飛行したが、本書はこの大壯擧に無電技師として參加したアン夫人のものした空の旅日記である。日本に關する記錄はあまりないが、荒涼たるカナダ、アラスカの風物の描寫など、如何にも女性らしい細かい觀察と、なだらかな筆致とが讀む者を引きつける。深澤氏の譯文亦流暢で、飜譯文を讀む時に感じ勝ちなギコチなさが少しもない。リンドバーク夫妻は本邦を去つてから支那で楊子江氾濫救濟委員會に參加して調査飛行をなしたが、遂に漢口で愛機を河中に顚覆せしめ、夫妻は救命浮標をつけて濁流に投ずると云ふ危險をすら冒かしたのであるが、本書の記述にもこの時のことが詳しく記されてある。

科學

天氣と天氣豫報

梶間百樹著

四六判 一七二頁 一・二〇 〒・一〇 古今書院

先年近畿を襲ふて幾多の慘害と哀話を殘した大颱風以來、國民の天氣豫報に關する關心は一

段と高かめられた樣に考へられる。然も尙今日、日々數回ラヂオを通じて發表される中央氣象臺の全國天氣概況が果たしてどれ程の人々に理解されてゐるであらうか、又その天氣概況と天氣豫報とが如何な關係にあるかを理解し得る人が果して何人あるであらうか。

本書はかつて中央氣象臺の豫報係りであり、其後各地に轉じて氣象觀測、天氣豫報の任に當たられた著者が、氣象に關する知識の普及を目的として簡明を旨として記述されたもので、今回出版されたものは十餘年前に出されたものに一大修正を加へられた改訂版である。內容目次を揭げれば、氣象の觀測―天氣圖―低氣壓―不連續線―高氣壓―豫報特報及警報―(附錄)晴雨計示度の原生に就て等となつてゐる。

最新科學の話　柴山雄三郎著

四六判　四一六頁　一・五〇　〒・一二　モナス

著者は讀賣新聞社科學部主任記者で、さきに初等理科課外讀本として「モノシリ博士の理科」を出版して甚だ好評であつた。本書はその姉妹篇とも云ふ可きもので、日進月歩の世界の科學界から「少なくとも、明日の新知識を獲得する土臺としての今日の科學」と云ふ意味で、飛行機、テレヴイジョン、殺人光線、潛水艦、トーキー、電氣砲、グライダー、光線電話、カタパルト、海底トンネル、輪轉機、地下の空港、飛行船、空中寫眞、地下鐵道、電氣時計、チヤイロ・スタビライザー、國際無線電話、電信、電送寫眞、ラヂオ等、凡そ尖端的の題目二十を選んで解說したものである。解說には如何にも新聞記者らしい平明さと面白さとがあり、唯讀み物として讀んで行くだけでも相當興味が深かい。程度は中等學校位と見て差支へあるまい。

ラヂオ技術教科書　日本放送協會技術局編

菊判　三八〇頁　一・二〇　〒・一四　日本放送出版協會

日本放送協會は毎年ラヂオ技術講演會と云ふものを開催して、この方面の業者のラヂオ知識習得に便して居るが、本書はこの講習會の教科書として同協會の專門職員に依つて編纂されたものである。理論としてはラヂオ受信機の取付けや故障修理に必要な程度に止め、主として實地に測した技術を述べたものであつて、謂はゞラヂオ技術の高級常識書とも云ふべきものである。故にラヂオ業を營なむものには固よりであるが、唯受信機の取付けや故障の修理と云ふ程度のラヂオ技術に關心を持つ人々にも亦大に參考となるものである。

日本の星

野尻抱影著

四六判　三五四頁　一・五〇　〒・〇八　研究社

「日本の星」と云つても日本でだけ見える星と云ふ意味ではない。世界の人類が共通に見てゐる星に、例へば「すばる」とか「たなばた」とか「ひこぼし」とか云ふ風に日本人特有の呼び方をしてゐるが、それについて考證的な研究をしたのが本書である。枕の草子にある様な「星はすばる、ひこぼし、明星、夕つゝ云々」と云ふ様なのは我國何處へ行つても通用する古典的な呼び方であるが、中には奥州だけしか、或は九州だけしか通用しないと云ふ範圍の狹い方言的な呼び方もある。この様な星の和名が本書には百幾つか集められ、之れを星の見える時期に依つて春夏秋冬の四季に分かち、その各々についてその呼び名の由來、傳說、萬國共通の學名との關係等について語られたものである。天文隨筆としてあるが、同じ著者に依つてものされた從來の天文隨筆――夫等は多くは神話や傳說を主とした讀物であつたが――それに比較すると、本書は讀み物としての興味よりは寧ろ考證的な研究書と見るべきである。書き方は勿論極めて平易である。

體育・衛生

水泳日本

宇田川枕木著

四六判　二六八頁　一・八〇　〒・一〇　雄山閣

この稿を記す時には未だベルリンから水泳日本の捷報は至つてゐないが、恐らく今回も何本かの日章旗をベルリンのオリンピツク・スダヂオンのメイン・マストに揭げることゝ思はれる。それ程世界的な日本の水泳であるが、本書の著者は古來傳はる水府流太田派水術の大家で、今年六十七才の高齢にも係らず本年正月荒川の寒流に身を浮かべて水弓發射の妙技を演ぜられたと云ふ壯者を凌ぐの元氣である。本書は大體純日本流の水泳法について全然の初歩から懇切丁寧、且輕妙なユーモアを交へつゝ說明したものである。今日巷間に現はれてゐる多くの水泳入門書は、競泳を主とした外國流の泳法であるが、本書では飽く迄「のし」とか「拔手」とか「立泳」「潛水法」とか云ふ様に古來の日本泳法が主で、クロール、バツクと云ふ様な西洋流の泳法が従になつてゐる。又「救護法」とか色々の應用水術、例へば水書、水弓、水銃、手足搦、

甲冑游、蕎麥喰、浮身、木ノ葉返し等々と云つた樣な、今日の若い人々には名前からして事珍らしいものも數多く擧げられてある。

榮養讀本

鈴木梅太郎
井上兼雄　共著

菊判　二九〇頁　一・〇〇　〒・一二　日本評論社

榮養と云ふ言葉は俗語として吾々は不用意に毎日用ひてゐる。所が然らば「榮養とは何ぞや」と開き直ほつて聞かれたら、吾々は直ちに返答に窮して了まふ。榮養と云ふことは夫程吾々の生活に關係深かいものでありながら、又夫程學問的常識として普通一般人には考慮されてゐないのである。本書の著者は「榮養」を定義して「生物が適當な物質を外部から取り入れて生活現象を續ける事を榮養と云ひ、この攝取する物質を榮養素と名づける」と云つて居る。本書ではこの榮養と榮養素との二つを考究の對象として、榮養編、食品編の二編に分かつて述べられてある。榮養編では人間の成育とか體溫とか骨骼とか、或はビタミン、ホルモン、或は消化とか養分の吸收とか云ふことを問題として說き、食品編では個々の食品について榮養素としての價値を論じて居る。榮養と云ふことは國民保健の上から、家庭生活に於ても團體生活に於ても是非考慮されなければならないことである。本書の樣な平易に書かれた「榮養學」書を得たことは誠に幸であると云はねばならない。著者の一人鈴木梅太郎博士は東京帝國大學名譽教授として斯學の大家であることは云ふ迄もない。

帝圖

文學・藝術

大楠公

大佛次郎著

四六判　四一九頁　一・八〇　〒・一二　改造社

嘗て朝日新聞の夕刊に連載された小說で正成が楠氏の一族を引き具して後醍醐天皇に御味方申してより、笠置、赤坂の合戰を經て千早城の戰までを取材としたものである。

戲曲集　二條城の淸正

吉田絃二郎著

四六判　三一九頁　一・七〇　〒・一四　新潮社

梅の咲くころ

吉田紘二郎著

四六判　二六二頁　・八〇　〒・〇八　新潮社

この著者の作品は本目錄には屢々採錄され來り、その都度好評であつた。依つて今更著者についての紹介も必要ではあるまい。

前者は「二條城の清正」「義經出陣」「名殘の梅ヶ香」「豐臣三代記」「沙門空海」「蔚山城の清正」「元帥大山巖」の七篇の戯曲を收めたもので、いづれもこゝ數年の間に各方面の雜誌に發表されたもので、中には既に舞臺に上演せられたものもある。

後者は感想集で著者の人格が最もよく現はれたものであり、その美しい文章に魅せらるゝと共に、敎へらるゝ所が多い。洵によい讀物である。

黑船來

菊池寛著

四六判　三七四頁　一・二〇　〒・一二　改造社

この本は維新歷史小說全集といふのゝ第一編である。嘉永六年ペルリ浦賀來航前後のことを小說風に書いたものである。小說風といつても、別に話の筋や主要人物があるわけではなく、漂流談を織込んで太平洋をめぐる國々の情勢を窺はせ、いはゞ當時の國際風雲を描き出さうとした特異な作である。流石に定評のある菊池氏の簡潔な筆致は、面白く讀ませ、かつ當時の情勢を彷彿たらしめてゐる。近世日本歷史において重大な一轉機である黑船來航の事情を、このやうな興味ある物語によつて知らせることは極めて意義あることである。絕好の讀物といふに足りよう。

その流域

賀川豐彦著

四六判　三六九頁　一・三〇　〒・一〇　大日本雄辯會講談社

阿波の國那賀川の流域の一寒村に生れた松下正市と云ふ一青年を主題に、この青年が社會のあらゆる醜惡と物質的貧困とに闘ひながら、常に己を持するに高く潔く、或は鄕里で、或は大阪で、或は東北の一山村に小學敎員として不幸な兒童を育成することに天職を感じ、あらゆる艱難困苦を飛び越へて努力したのであるが、遂によき異性の協力者を得て再び鄕里那賀川の流域に歸つて、愛土、愛隣、愛神の三愛主義の下に衰へきつた山村の更生を計る爲に新らしき出發をなすと云ふのを大體の筋とした小說である。著者の基督教的思想の加味された農村小說で

ある。

日本武將譚　菊池寛著

四六判　四三三頁　一五・〇　〒・一二　黎明社

これは菊池氏の昔譚類の一つで、新聞や雑誌に連載されたものを集めたものである。日本の史上に見る武將、將門、義家、義仲、義經、正成、道灌、早雲、光秀、如水、政宗、清正、三成、信玄、等について、一流の慧眼を働かして、簡潔明快な筆致で書き現はしたものである。史實に忠實を期しながら物語としての興味も持たせようとした記述であるが、獨特の妙味がある。新しい常山紀談といふやうなもので、讀物としては勝れたものであらう。

肉彈終篇 流血の丘　櫻井忠溫著

四六判　三四六頁　一・五〇　〒・一四　新潮社

「流血の丘」外數篇を收めたものである。中でも「流血の丘」が一番の長篇で、肉彈終篇と冠してあるのを見ても知れる樣に、肉彈中尉として出征した日露戰役の想ひ出である。と云ふのは著者は昨年、夫人を伴つて滿洲に旅せられ、三十年前の古戰場を訪ふた。そして悲壯なる當時を偲んで「肉彈」にも記さなかつた色々の事柄を書き綴られたのが本篇である。その他小說・隨筆、感想等があるが、何れも滿蒙の地を背景とした戰爭に因んだものである。例に依つて挿繪は著者自らの筆になるものである。

文學讀本　春夏秋冬　北原白秋著

四六判　四九三頁　一・五〇　〒・一四　第一書房

第一書房文學讀本中の一編であるが、これは他と異り春夏秋冬一部に收まつてゐる。他と同樣季節月別に配列し、感想文、紀行、詩、歌の類が編纂せられてゐる。編者は佐藤一英氏である。編者が「おそらく一世紀に一人ぐらゐよりあらはれない、豐かな富んだ詩人」と絕讚してゐる白秋氏の全面が、變化に富んだ風貌を呈してこの一卷の中に現はれてゐるのである。趣味的な讀物としては極めて適當なものであらう。

短歌管見　松村英一著

四六判　三〇〇頁　二・〇〇　〒・一二　人文書院

著者は現歌壇の重鎭であり、實作に歌論に最も活躍する一人である。本書は近年來書いたも

の丶文集であつて、それだけに現實の歌壇における諸問題諸傾向に密接にふれてをり、歌壇の現狀を知るには最も便益ある著書である。短歌を新しく始めようとする人にも、短歌を試みつゝある人にも、それ〲の意味において最もよい案内書となり、手引となるだらうとおもはれる。著者はそれほどに歌壇の道案内人としてふさはしい人である。

良寛の歌　　大坪草二郎著

四六判　二〇〇頁　一・〇〇　〒・〇八　あしかび草舍

著者はアララギ派の中堅歌人である。この本は歌によつて良寛の生涯を知らしめようと試みたものである。いふまでもなからうが、良寛は越後の人で、幕末に於ける傑出した萬葉風歌人である。相馬御風氏の畢生の努力によつて殆んど限なく探究され、世に紹介されて來たことは周知のことであり、今では良寛の名はあまりにも有名で一般的になつてゐる。良寛の歌は生活即歌の最も典型的な一見本であるから、歌によつてその生涯を傳へる試みは、おもふに誰よりも適した歌人であらう。著者は良寛に傾倒し、熱情をもつて書いてゐる。讀物としてもよく、また清純無垢の人格にふれて修身のよすがとするによい。

日本名詩選　　山田準著

三五判　三七八頁　一・八〇　〒・一二　章華社

今日は日本精神の作興に伴ひ漢詩朗吟の隆盛を來してゐる。著名な漢學者山田氏は玆に見るところあつて、昭和六年編著した漢詩吟養氣集中の絶句百五十二篇につき講述したものを纏めて本書を刊行したのである。古くは菅公より始まり近くは澁澤青淵翁に終つてゐる。數の多いのを見れば、なんといつても山陽が筆頭であり、三島中洲、乃木將軍等これに次いでゐる。講述は作者、題意、字講、義講、餘説といふやうにして大意を說き、一讀直ちにその眞諦を理解するやうになつてゐる。作の眞意を知り朗吟すれば、朗吟もまた一段と有意義であらう。青年諸君の必携に値しよう。

漢詩讀本　　細貝香塘著

四六判　三〇六頁　二・〇〇　〒・一二　秋豐園

漢詩讀本と云ふ題名からすると、何か詩を作る上の技術的な入門書の樣な感があるが、必ずしもそうではない。最初に「詩人の草屋」と題する一章があるが、こゝに詩作の精神、或は詩想

とも云ふべき詩を作る根本精神について語られてあるが、以下の大部分は乃木大將、伊藤公爵澁澤子爵の三人の詩について述べてある。著者の言葉に從へば、この三偉人は大將軍、大政治家、大實業家であると共に又實に大詩人でもあつたので、この大詩人の詩藻或は風懷について語ることは、同時に詩作の入門書としてこの上もないよい結果を齎すものである。又詩を作ると云ふことを考の外において本書を讀んでも、この明治大正の三偉人の作られた詩について熟讀すれば、自らそこにこれ等の人々の精神生活の一端がほの見へてまことに心ゆかしいものである。

お話のコツ

安倍季雄著

四六判　三〇二頁　一・二〇　〒・〇八　白鳥社

本書は童話家として著名な著者が、長い體驗に基いて、人にお話をする場合の要領を說いて聞かしてくれる本である。お話は要するに人に解らせなければならないといふ最も根本の眼目に從つて、いろ／＼な場合に應じていろ／＼な要件が出て來るわけであらう。著者は豐富な體驗によつて、よく嚙んで含めるやうに語つてくれるのである。

今日話術といふことが注意せられるやうになつてゐる。ある意味において辯論時代である今日、青年諸君も明確な思想を把握するとともに話術の研究もしておかなければなるまい。そのためには本書のやうなのがまことによい手引であらう。

西洋音樂の鑑賞法

小松清著

四六判　二七二頁　一・三〇　〒・一四　三省堂

この目錄の第十二輯に山田耕筰著「音樂讀本」と云ふのを推薦しておいた。既に之を所有せらるゝ人には本書は幾分重複の嫌ひはある。が詳しく讀んで見ると本書には本書の特徴がある。前者は記述は讀本と云ふ名にふさわしい平易なものであつたが、取扱はれた取題に多少のかたよりがあつた。例へば樂器の說明に特に詳細であつたり、歌劇や樂劇の構成とか由來とか云ふことに多くの頁を割いてあつて、西洋音樂の本質に關する部門は比較的說明が簡であつた。之は入門書として一般の興味を西洋音樂に向けしめる爲には然るべき方法であるが、本書は之に比較すれば稍々程度の高いもので、西洋音樂の性質、樂譜、樂典、音樂の形式、樂曲の種類、西洋音樂の諸時期等、主として西洋音樂鑑賞上に必要な基礎知識を精粗なく系統的に記述した

ものである。故に西洋音樂の常識だけを得ようと云ふ人には「音樂讀本」で充分であるが、多少西洋音樂の構成について知り度いと云ふ人には寧ろ本書の方がよい。記述は無論平易で、この方面の知識の皆無の人が讀んでもよくわかる程度のものである。

歐洲美術の歴史　相良德三著

（エヂプトから現代まで）

四六判　二四八頁　一・六〇　〒・一〇　清和書店

程度は中等學校上級生位で、歐洲美術の歴史をエヂプト時代の古から現代迄を簡潔に一冊の本の中に述べつくそうと云ふのが本書に於ける著者の目的である。この著者には既に歐洲美術に關する二三種の著述があり、その何れも平明よく要をつくして評判がよい。本書の如きも丁度若い人々を前において歐洲美術の講話をすると云つた體の、親しみの深い平易な文章で書き綴られたものである。述べられた範圍も繪畫とか彫刻とか云ふ小範圍に限らず、當時の社會情勢一般を背景としての美術の發展の跡を述べてあるので、さながら歐洲文化史を讀む樣な興味がある。

すべてのものがそうであらうが、特に美術に於ては最初から正しい知識と美しい感情とを以て之に接しないと結局美術と云ふものは理解出來ないのである。その意味で若い人々の爲に平易に正しく美術の知識を敎へ込むものとして本書の如きは正に上乘のものである。歐洲美術史としては極く入門的なものである。

產業（農・工・商業）

農家經營法　松本喜作著

四六判　四〇二頁　一・五〇　〒・一四　樂浪書院

著者は篤農家として知られてゐる。「卷尾に」よれば、「不肖二十歳にして世に出で修身齊家に沒頭すること、二十餘年。後繼の者漸く生長し家業を之に讓りて更に後顧の患なし。卽ち各縣の招聘によりて足跡殆んど全國に普し」と。本書は「著者が實地を踏査し又は其家を訪ひ乃至其の土地の古老先覺に就いて聞きし事のみにして、間々實地踏査の未だ及ばざるは最も確實なる記錄によりたるもの」であると。本書によつて說くところは「經營を巧にして收益を增進

する事」のみでなく、「之に加ふるに農家の精神及び世帯を持つ要諦」を知らしめるにある。
內容は「農業經營の要素」「理想と實現」「收益增進」「農家經濟」「村家興隆」の五章から成り、第二章は特に「體驗を語る」と註してあつて、氏の今日を築く體驗談であるが、最も傾聽すべき部分である。記すところすべて實際の事柄であり、しかも努めて感興を引くやうに書かれてあるから、農村青年諸君も興味をもつて讀むことが出來、種々の點において教へられるところが多からうと思ふ。

村長は語る　　農村更生協會編

四六判　四八頁　・一五　〒・〇二　農村更生協會

農村更生協會では『恰かも農村更生の先驅二宮尊徳翁の逝去八十年祭記念の式典が東京に取り行はれる昭和十年十月十八日の前日を選んで、二十府縣に於ける優良村々長二十氏を東京に招いて「農村更生座談會」を開いた。』本書はその速記錄である。二十府縣の選定は便宜上の考慮によるものであり、それ〴〵「知事を煩はして縣下に於て最も更生運動に熱心な村長一名の推薦を得た」のである。
同協會理事石黒忠篤氏が座長の下に二十町村長それ〴〵題目について實際の事情を熱心に語つてゐる。農村更生の中心にあるべき町村長の體驗事實談には青年諸君にも傾聽に値するものがあらう。まことに有益な記錄といふべきである。

蔬菜果物の荷造と販賣　　山崎磐男著

菊判　二六六頁　三・八〇　〒・一二　西ケ原刊行會

著者は東京市神田青果市場に職を奉ぜられて青果の研究調査に從事さるゝこと十餘年と云ふ斯の道の專門研究家である。青果物荷造の適否と販賣方法の巧拙とが、市場取引の上から直接生產者に及ぼす利害の重大であることにかんがみ、長年の經驗を土臺にしてこの問題について研究されたものである。
內容は第一編は總論として荷造一般についての概念を與ふるもので、個々の蔬菜果物の荷造については第二編各論に於て詳記されてゐる。この第二編では蔬菜の數五十二種、果物の數二十二種につき個別的に荷造の實際について述べてある。第三編は蔬菜、果物の販賣と題して、こゝでは主として中央卸賣市場の機構、共同販賣機關等を紹介して、生產者從來の販賣方法と比

較してゐる。

以上の如く本書は問題の取扱ひ方が稍々專門的ではあるが、記述は平易で實際問題を主としてゐるので理解に易く、農村の蔬菜果物の生產者には相當役に立つものと思はれる。尚又この種の書物が目下の處比較的尠いことも一言付け加へておく。

實用農藝全書　明文堂發行

小型本　各一・二〇　〒各・一〇

第一	果樹園藝	西田悅夫著	二九六頁
第二	土壤	松本五樓著	三六四頁
第三	肥料	高石發著	三五一頁
第四	農用機具	森周六著	二九五頁

この叢書は何れも農業技術員、農村青年、青年學校生徒の參考書として著述されたものである。從つて相當專門技術的なことが取扱はれてゐるが記述は平易である。

先づ第一の「果樹園藝」について云へば、最初に約六十頁程に亘り經營管理について述べられてあるが、以後の大部分は十四種の果樹（柑橘、枇杷、柿、栗、梨、苹果、桃、李、梅、櫻桃、葡萄、無花果、胡桃、ペカン）についての栽培の實際を語るものである。

次に「土壤」であるが、之は取扱はれた主題の關係上稍々專門的であるが、然も著者は「中等教育を終へた程度の人を基準とする平易で而も實地應用上參考となる著書」たる可きことを主眼として執筆されたので、平易に書くと云ふことに相當苦心されたあとが見える。大きな目次をあげて見れば、土壤の生成・分類・調査法、土壤物理、土壤化學、土壤微生物、土壤の肥沃度、土壤の改良等となつてゐる。

次は「肥料」であるが、之も序文によれば肥料學原論や肥料製造論に關する難解な部分は避けて、專ら各論に重きを置いて實際に役立つ肥料知識の涵養に資するを目的としたとあつて、本書の大部分は「肥料學各論」の名の下に、各種の肥料について解說されてゐる。

最後に「農用機具」であるが、之は我が國では農用機具が非常に發達し、農家では其の選擇に迷つてゐるとか、或はたま／＼ある種の農具を購入してもその使用法を誤つた爲に、所期の功果を收め得なかつたとか云ふ實情に鑑みて、農用機具全班に亙つての一般知識を與へることを目的として執筆されたものである。內容は「畜力利用農機具」と「機械力利用農機具」とに大別

されてゐる。

草苺栽培の實際　　大石俊雄著

四六判　一一三頁　・九〇　〒・〇八　泰文館

著者は嘗て櫻桃栽培法を著し、本園より産業賞の授與をも受けた青年篤農家であるが、ひとり櫻桃の栽培法に於てのみならず、各種の園藝作物の栽培に驚く可き手腕を發揮してゐる。こゝに掲げる草苺の栽培についても、著者の大粒栽培、品種改良、病害、害虫、收穫及販賣、調理加工法等についての經驗を平易に述べたもので、序文に依ると自ら經營さるゝ農園の研究生の爲に、指導を兼ねて謄寫版刷で要領を印刷したのを增補して上梓されたとのことである。

日本工藝沿革史　　金子清次著

菊判　二七四頁　二・五〇　〒・一四　共立社

本書は學問的なむつかしい研究書ではなく、各時代の工藝美術の發達乃至は外國の影響などゝ云ふことを中心にして我國工藝の動向を平易に示そうとするものである。記述の方法も趣味的な或は鑑賞的な態度を特に避け、事實を間違ひなく記載すると云ふ方法が採られてゐるので、

一寸教科書風の感じである。全卷二七四頁の中、明治、大正、昭和の所謂現代に屬する部分が約百頁にも及び、全體の割合に比較的多くの頁の割かれたのは、趣味的に昔の工藝美術を語るのではなく、現代の我國工藝の由來する所、並に將來の方向を暗示することに主力を注いだ著者の意圖に外ならない。一般に誰にでも推薦すべき本ではないが、この方面に關係のある人々或は興味のある人々には一讀をすゝめ度い。こゝに日本工藝と云ふのは金工、陶工、漆工、織工、染工、革工、刺繡、蠶糸その他である。因に著者は神奈川縣立工業學校の圖案科長である。

新式自動車教本　　上坂正雄著

菊判　二七六頁　二・〇〇　〒・一二　工業圖書株式會社

本書は自動車技術に關して一切のことを說明した專門書である。今日は自動車全盛時代ともいふべく、如何なる寒村僻地にも行き渡つてゐる狀態にある。自動車の取扱は日常茶飯事として心得てゐなければならぬ時代であらう。農村青年諸君にとつても必須の知識となりつゝあるといへるであらう。本書は專門書であるから、初入の人には難解であらうが、少しでも技術上の心得のある人にはまことに易々たる本であらう。参考書として紹介しておく次第である。

666
102

新らしい商店實務　倉本長治著

四六判　一九七頁　一・二五　〒・一二　誠文堂新光社

この本は一般店員として心得ねばならない細々した事柄、或は販賣や廣告の實務として是非心得ねばならない事項で案外うかつに見逃されてゐるやうな事柄、例へば商品の註文の受け方商品又は文書の發送、集金、又は送金といふやうなことに主眼をおき、之に關聯して郵便の知識、銀行に關する事、小切手、手形といふやうな問題を具體的に取扱つたもので、極めて實際的な商店從業者の常識讀本ともいふべきものである。著者は「商店界」主筆として實際に明るい人であるから、その説明が懇切丁寧で、一々の事項について手を取るやうに教へてゐる。

新らしい仕入法　倉本長治著

四六判　二〇八頁　一・二五　〒・一二　誠文堂新光社

商店經營成敗の基本は商品の仕入にあるといつても過言でないかも知れない。然るに我が國では商品仕入や商品管理に關する著書は至つて少いといふことである。これは商店經營上それらに關する研究が進歩してゐないことを證明するものであらう。本書は著者が、一般小賣商店の幹部級店員の爲に、能ふ限り平易に、實例的に書かれたものである。今日小賣商店の經營困難を救ふ一手段として「共同仕入」などといふことも唱へられてゐるのであるが、それらの問題についても本書に聽くべきことがあらうし、その他商品管理についての實際的な研究をもつと〱今日の商人は學ぶべきである。

商店經營十講　今井忍著

四六判　二五八頁　一・二〇　〒・一〇　高陽書院

倉本氏の著書は商店經營の實際に當つての要點や注意事項を説いてくれるものであるが、本書は多少理論的に商店經營内部の問題を一般的に取扱つたものである。このやうな本も今日の商人は一讀しておく必要がある。商店經營が今日一般に如何なる方向に向つてゐるかを知り、自店經營上の參考にするのである。殊に本書は經營費計算のことを主として取扱つてゐる。この方面の研究も今日遲れてゐるところであらうから、このやうな本によつて科學的に多少學んでおく必要があらう。

666
102

附錄

第十三輯收錄の推薦圖書目錄

書名	著者	大サ	頁數	定價	送料	發行所
現代社會と人格生活	吉田靜致	四六判	二三九	一・六〇	・〇八	目黑書店
皇國の行くべき道	荻原擴	四六判	一九〇	一・五〇	・〇八	目黑書店
祭祀の本領	星野輝興	四六判	三九	〇・一五	・〇二	日本文化協會
人類の意志に就て	武者小路實篤	四六判	二〇八	〇・七〇	・一〇	岩波書店
人生の大原動力	本間俊平	四六判	三一六	一・〇〇	・〇八	實業之日本社
心學講話	石川謙	四六判	二七三	一・五〇	・一四	章華社
松陰先生士規七則講話	廣瀨豐	四六判	一四九	一・〇〇	・一〇	日本放送協會
モラエス日本精神	花野富藏譯	四六判	三一六	一・五〇	・一四	第一書房
內的生命觀	吉田賢龍	四六判	二二四	一・六〇	・〇八	目黑書店
熱と愛との結晶まごころ	村上寬	四六判	三一二	一・〇〇	・一〇	文友堂
口語全譯幼學綱要	元田永孚編 蘆谷重常譯	四六判	五二四	二・〇〇	・一四	厚生閣
帝國憲法制定の精神	金子堅太郎	四六判	一〇四	・三〇	・〇四	青年教育普及會
日本の過去現在及び將來	穗積重遠	四六判	一九八	一・〇〇	・一〇	協和書院
日本國勢圖會 昭和十年版	矢野恒太 白崎享一 共編	菊判	三七〇	一・〇〇	・一二	國勢社
農村問題解說	栗原藤七郎	四六判	二八二	一・〇〇	・〇八	明文堂
鄉土生活の研究法	柳田國男	四六判	三三三	一・五〇	・一四	刀江書院
中朝事實講話	飯島忠夫	四六判	三五二	一・五〇	・一四	章華社
二宮尊德傳	佐々井信太郎	四六判	三六五	二・〇〇	・一六	日本評論社
ビスマーク	鶴見祐輔	四六判	五〇三	一・五〇	・一四	大日本雄辯會講談社
偉人と風土錄	吉松祐一	四六判	四〇五	二・〇〇	・一二	大同館
滿洲讀本 昭和十年度版	東亞經濟調查局編	菊判	三九二	一・〇〇	・一四	東亞經濟調查局
沙漠の國	笠間杲雄	四六判	三六九	一・八〇	・一四	岩波書店
支那遊記	室伏高信	四六判	二九三	一・五〇	・一四	日本評論社
歐亞點描	下田將美	四六判	三二六	二・八〇	・一四	一元社

科學點景	寺尾新	四六判	一六二	一・七〇	・〇四	時潮社
昆蟲挿話	丸毛信勝・織田富士夫	四六判	二七五	一・八〇	・一〇	古今書院
暦と迷信	鈴木敬信	四六判	二二一	一・五〇	・一四	恒星閣
趣味の植物採集	牧野富太郎	四六判	二〇六	一・五〇	・〇八	三省堂
天文や氣象の話	藤原咲平	四六判	三〇八	一・二〇	・一〇	岩波書店
民族問題をめぐりて	古屋芳雄	四六判	二六六	二・二〇	・一〇	人文書院
現代人の爲の短歌のつくり方	石榑茂	四六判	一二八	・八〇	・〇六	三省堂
俳句讀本	高濱虚子	菊版	三三二	一・五〇	・一五	日本評論社
花鳥小品	荻原井泉水	四六判	二九八	一・八〇	・一四	三笠書房
山の隣人	長尾宏也	四六判	二四八	二・二〇	・一四	竹村書房
山中說法	楚人冠	四六判	三二〇	一・八〇	・一二	日本評論社
北を征く	櫻井忠温	四六判	二〇一	・五〇	・〇六	朝日新聞社
篤農家の研究	山路虎吉	四六判	六〇六	二・八〇	・一四	泰文館
朝日産業叢書 第四輯 安全稻作法の話 第五輯 共同作業場の話	朝日新聞社編	四六判	各七〇	各・一〇	各・〇二	朝日新聞社
農山村副業叢書 第一輯 山村の副業	川添孝藏	四六判	九六	・二五	・〇二	大日本山林會
實驗害虫防除法	矢後正俊	菊判	四三八	三・八〇	・一二	養賢堂
漁村と共同組合	星四郎	四六判	一二三	・五五	・〇四	水產社
鯉と鮒の養殖法	阿部圭	四六判	一〇三	・六〇	・〇六	大日本水產會
商業經濟講話	猪谷善一	四六判	二二一	・九〇	・〇六	三省堂

發行所一覽

（推薦圖書は日本青年館代理部で取次ます）

岩波書店　神田區一ツ橋通三
一元社　本鄕區弓町一ノ二五
學而書院　神田區松永町二一
改造社　芝區新橋七ノ一二
協和書院　神田區神保町三ノ三
共立社　神田區駿河臺三ノ九
研究社　麴町區富士見町一ノ五
厚生閣　麴町區下六番町四八
工業圖書株式會社　神田區旅籠町三ノ四
高陽書院　神田區小川町一ノ一
國勢社　京橋區京橋三ノ一　第一相互館
古今書院　神田區駿河臺二ノ一〇
恒星閣　芝區南佐久間町二ノ三
三省堂　神田區通神保町一
時潮社　芝區田村町五ノ二三
實業之日本社　京橋區銀座西一ノ三
章華社　目黑區中目黑二ノ五八二

新潮社　牛區矢來町七一
秋豐園　神田區小川町一ノ六
水產社　麴町區丸ノ內三ノ八
淸和書店　神田區小川町二ノ二
靑年教育普及會　神田區一ツ橋教育會館內
盛文堂新光社　神田區錦町一ノ五ノ五
叢文閣　麴町區九段四ノ八ノ八
創元社　芝區二本榎西町二
第一書房　麴町區一番町五
竹村書房　四谷區坂下町七八
大同館　神田區一ツ橋通町二ノ三
大日本雄辯會講談社　小石川區音羽町三ノ一九
大日本山林會　赤坂區溜池町一
大日本水產會　赤坂區溜池町一
泰文館　神田區小川町三ノ二四
千倉書房　京橋區京橋交叉點
東亞經濟調查局　麴町區內山下町一ノ一

刀江書院　神田區駿河臺三ノ六
日本評論社　京橋區京橋二丁目
日本靑年館　四谷區霞丘町一一
日本放送出版協會　麴町區內幸町幸ビル
日本文化協會　日比谷公園市政會館
西ケ原刊行會　赤坂區一ツ木町三一
農村更生協會　麴町區有樂町一ノ九ノ二
白鳥社　麴町區下六番町二七
文友堂　神田區神保町三ノ二一
寶文館　日本橋區室町四ノ五
三笠書房　神田區神保町三ノ六
武藏野書院　小石川區高田豐川町四一
目黑書店　神田區駿河臺三ノ一
明文堂　神田區錦町一ノ四
モナス　小石川區竹早町三五
山崎延吉全集刊行會　神田區錦町二ノ三
雄山閣　麴町區富士見町二ノ八

蓍賢堂　本鄕區森川町七〇
樂浪書院　中野區江古田一ノ二〇五四
黎明社　芝區西久保櫻川町七
人文書院　京都市河原町二條下ル
あしかひ草舍　大阪府中河內郡布施町永和三九三
大阪朝日新聞社　大阪市中之島
盛文館　大阪市西區靱北通二ノ一八

666
102

推薦圖書目錄

【定價五錢】

昭和十一年九月十五日印刷
昭和十一年九月十七日發行

編輯兼發行者　東京市四谷區明治神宮外苑霞ケ丘口　下村虎六郎

印刷者　東京市麴町區麴町五丁目二番地　杉田彌太郎

發行所　東京市四谷區明治神宮外苑霞ケ丘口　大日本聯合青年團

杉田屋印刷所印行

666
102

Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black